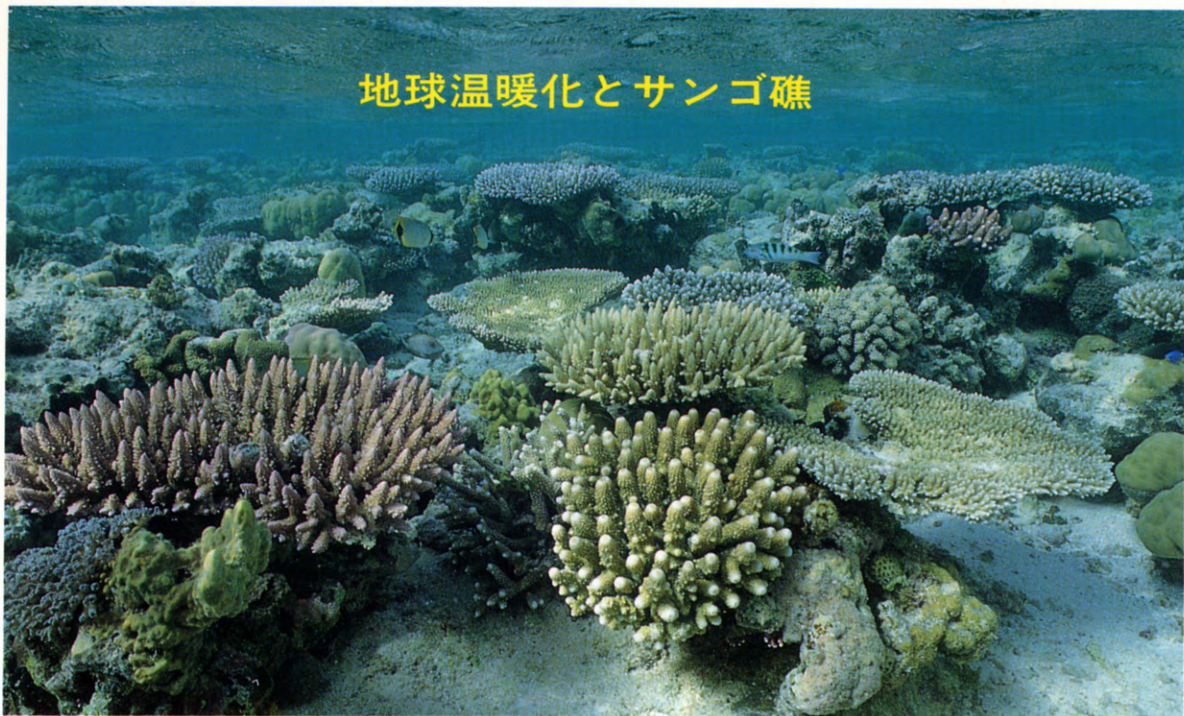


地球温暖化とサンゴ礁

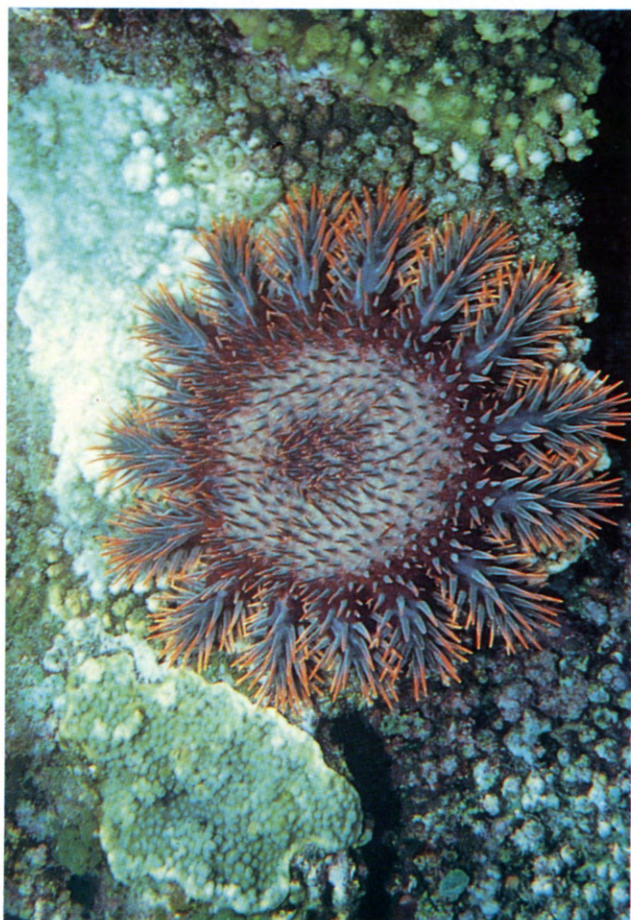


1. パラオ諸島西岸のバリアリーフ(堡礁)上のサンゴ群集の景観。盤状ミドリイシが多い。

温暖化に伴う海面上昇によって、熱帯の海岸を縁どるサンゴ礁とマングローブ林は沈水してしまう危機にある。両生態系は温暖化をもたらすCO₂の吸収源として注目されているが、自然・人為的影響による破壊が進んでいる。ローカルな環境保全・創造を通じて地球環境の保全を進めるために、サンゴ礁・マングローブ林の保全・管理技術、CO₂固定の場としてのサンゴ礁エコファクトリーの構築技術の開発がのぞまれる。



2. フィジー諸島ヴィチレブ南岸の潮間帯のマングローブ林 (山形大学 前田保夫教授撮影。)



3. サンゴを食害するオニヒトデ。奄美大島。



4. 千葉県館山市館山駅前に展示されている完新世温暖期のマルキクメイシ群、



5. 千葉県館山市香の露頭中のキクメイシ群、



6. 現生ノウサング群、沖縄県石垣島、

地球温暖化による来世紀の平均気温の上昇は3℃前後とされている。今から8000年前から5000年前の完新世前期には自然の気候変動によって地球が1～5℃現在よりも温暖だった時期があって、ヒプシサーマル期(高温期)と呼ばれている。この時期には、千葉県の館山湾には現在の奄美群島にみられるような造礁サンゴ群集が生育していた。このサンゴ群集はその後の地震隆起によって陸上に露出して、沼サンゴ層と呼ばれている。ヒプシサーマル期の気温の上昇量と予測される来世紀の気温の上昇量はちょうど同じ位であるから、過去の温暖期の様相と過程を詳しく明らかにすることによって、未来の温暖化の過程と影響を評価することが可能になる。

(海洋地質部 茅根 創)